

■児童・生徒の学力の状況

○「R6全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「読むこと」の領域や、記述式の問題に対する正答率が低い。数学では、「図形」の領域や数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低い。

○授業には意欲的に取り組むものの、国語では「根拠を明確にして考えて書く」、数学では「データを読み取り説明する・証明する」等、論理的に考え、自分の意見を表現する活動の苦手な生徒が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○生徒が主体的に学習に取り組む時間が十分に確保できていない。特に、課題解決に向けたOutput、まとめ・振り返りの時間を十分に確保し、生徒の伝える力・書く力の育成に、一層、力を入れる必要がある。

○各教科の学習と総合的な学習の時間をつなげ、一人一台端末を、問題解決の過程の様々な場面で、効果的に活用していく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○生徒が「主体的・対話的で深い学び」「協働的・探究的・問題解決的な学び」を展開し、「個別最適な学び」を実現していけるよう「学び」を生活につなげる取り組みができる授業改善を進める。

○生徒自身、および社会全体の未来を切り開くための「キャリア教育」をテーマに、小中一貫教育、板橋区コミュニティ・スクールの活用など他機関との連携を推進する。

○「板橋区授業スタンダード」を徹底し、見通しをもたせた授業を展開し、基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

○家庭学習の習慣化（7年70分 8年80分 9年90分）を図り、自分で計画を立てて学習を進めていく学び方の指導を行い、生徒自らが課題を見つけ出し、主体的に取り組む態度の育成を推進する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○理解を深める有効なツールとして、タブレットを含むICT機器を活用する。	○毎日の朝読書や教科書等を読む活動を通して、基礎的読解力の育成に努める。 ○各教科等の授業において、INPUT→THINK→OUTPUTを授業の中に設定する。特に生徒が主体的にOUTPUTする場面を設定する。	学習を通して発見した課題（進路、自然・環境、国際理解）とSDGsを関連付け、自分たちに出来ることを考え、実践できる力を育成する授業実践を行う。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○若木小学校・中台小学校との学びのエリア研修による9年間を通した読み解く力の育成、総合的な学習の時間の年間計画を作成・実践していく。 ○児童・生徒の行事における交流の場を設ける。	○指導力向上推進校として、今年度の校内研究テーマを「生徒の主体的な学びを重視した授業の工夫・改善～教科のつながりから探究へ～」と設定し、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために教科のつながりを意識させる授業を展開し、その中で培った「協働的な学び」及び「主体的で対話的な学習態度」を「探究」につなげていく。	○各教科の学習と総合的な学習の時間をつなげ、一人一台端末を、問題解決の過程の様々な場面（課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現）で、効果的に活用していく。